

佐治町、山王谷、たんぽり荘、
 山王谷、山王谷、山王谷、
 山王谷、山王谷、山王谷、
 山王谷、山王谷、山王谷、
 山王谷、山王谷、山王谷、



わくわくするようにな
 未来を
 佐治町、山王谷、たんぽり荘

たんぽり 村 まつり



「こんなのあったなあ」という過去と

「こんなふうになったらいいなあ」という未来が交差する

新しくて懐かしい、暮らしと地域が体験できる宿泊型体験イベント

鳥取や近県で自給自足を実践する 出店者紹介パンフレット 2015



開催日時：2015年10月10～12日

場所：鳥取市佐治町中集落（山王谷キャンプ場 たんぽり荘）



発行：たんぽり村まつり実行委員会（代表 幸田 090-7997-3321）

HP（<http://tottoriidoumura.kakurezato.com/>）FB（たんぽり村まつり）

1. たんぼり村まつり 紹介

“佐治谷話”として現在も80以上の民話の残る佐治町では、川を掘って居場所(理想の場所)を自分でつくるイワナのことを“たんぼり”と呼んでいます。



過疎高齢化の波に飲み込まれて衰退・消滅するのではなく、自分の住んでいる場所を愛し、誇りを持っているからこそ、強い危機感がうまれます。そんな佐治の人達と、“たんぼり”のように、「こんな暮らし・地域に住みたいなぁ」という理想の村を作ってしまうと、昔ながらの生活が残る中集落を舞台に、県内外で自給自足の暮らしと魅力的な活動を実践するよそ者(スタッフ・出店者)、地域おこし協力隊、行政(佐治総合支所)と地元企業(山王谷キャンプ場 たんぼり荘を運営するさじ式拾壱)が協力して**3日間だけのコミュニティ たんぼり村**を2014年に開村しました。



2年目となる今年は、10月に行うたんぼり村まつりで必要となる食やエネルギー(薪・自家発電)、薪を扱う技術などを自給することを目指して、5月から**連続ワークショップ**を行い、無農薬の田んぼ・畑、山仕事と薪作り、薪でご飯や風呂を沸かす自給自足キャンプを行ってきました。また、たんぼり村まつりを開催する中集落は素晴らしい場所ですが、**ただその場所だけを利用す**



るのではなく、その場所=佐治に先人が築き、脈々と受け継がれてきた暮らしの知恵や文化、歴史などを学びながら、その中から未来へのヒントを探すという、過去と地元という“地”に足をつけながら「過去から未来を探る」をテーマにした「佐治ツアー」を9月に開催しました。



今回は1~2月頃に、佐治で行われていた炭焼きを残したいと、炭焼き組合を作り、自分たちで白炭の焼ける炭窯を作って炭を焼いている人達から、炭焼きを体験させてもらいます。詳細は**たんぼり村ブログ**(<http://tannporimura.blog.jp/>)でも報告・告知しますので、ご覧下さい。

また、去年はなかなか地元の人に来てもらえなかったので、「**地域の人を巻き込む**」仕掛けとして**たんぼり村通信**を7・8・9月と発刊しました。たんぼり村まつりを運営するスタッフのほとんどは地元佐治のスタッフなので、その**地元スタッフがどういう想いでやっているのか、また、連続ワークショップに参加した町外・県外といったよその参加者の感想**などを、手書きで、地元の地名や人が登場するローカルな冊子です。佐治の人達に少しずつでも広めていくと共に、佐治のスタッフが**地域の現状も伝えながら地元の「生の声」**を、外の人に伝えるツールでもあります。HPからダウンロードできますので、(<http://tottoriidoumura.kakurezato.com/tuusinn/index.html>)ご覧下さい。



たんぼり村まつりは、「**こんなあったなぁ**」という過去と、「**こんなふうになったらいいなぁ**」という**未来が交差するおまつり**です。ここでしかできないことや、ここでしか描けない夢を実現するために、地元案内人による地元集落を歩くツアー、火を囲みながらの塩づくり、太陽光発電による自家発電ライブ、薪でわかす五右衛門風呂、食・子育て・地域をテーマにした実践者によるライブトーク、夜は薪を使ってみんなでご飯や五右衛門風呂を湧かして過ごす共同生活の時間、ガスやゴミ箱を使わず薪で料理する飲食ブース、手作り体験もできる手仕事の作品販売、“森の幼稚園”が盛んな鳥取ならではの子どもも一緒に楽しめる体験コーナーや、医療、アートなど、暮らしに必要なとする様々なジャンルにわたって、過去と未来の暮らしが体験できるおまつりです。



2. たんぼり村まつり 出店者紹介

世の中のスピードは早く、お金が価値観という考えは根強く、共存ではなく世界を巻き込んだ競争社会、都市と地域の格差拡大など、**私たちが本当に守りたい家族や住む場所を守るには、理想の暮らしや地域を実現するためにはどうすればいいのか？**私（幸田）自身、理想の暮らし・働き方・生き方を目指して、「**自分で食べる・使う物は自分で作りたい、大事なもの（家族）を何かあっても守れるように**」**自給自足・循環型の持続可能な暮らし**を実践してきました。しかし、**1人（家族）ではできることに限界があるので、みんなで支え合うようなつながり・ネットワーク・コミュニティを作りたい**と思うようになり、今回の“たんぼり村まつり”に至りました。

まつりに来てくれた人も、来れなかった人も、後でじっくり読めるように文字にしてもらいました。お客さん・出店者同士でも、イベントではよく顔は合わせていても、意外とじっくり話す機会はなかったりします。どんな人が、どんな活動を、どんな想いでやっているのか・・・単なるこのまつりの出店者の紹介ではなく、**既実践している人たち同士が、そしてこれから始めたい人たちが、つながっていくきっかけ**になれば嬉しいです。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ・屋号、お店の名前 | ・WEB（HP、ブログ、FB） |
| ・代表者氏名 | ・お店や活動紹介 |
| ・住所 | ・子ども達（未来）に残したい・伝えたいこと |
| ・連絡先（電話番号、メール） | or フリーテーマ |

1. 食事

- 日々の糧（米子）
- 風実野（琴浦）
- 天然食堂つきとおひさま（八頭）
- 野原のCafe ぼすと（智頭）
- いなほ屋（岡山）

2. 軽食

- ひとむすび（スタッフ）（鹿野）
- ひとやすみ（八頭）
- しろつめ農園（智頭）

3. 野菜

- 胡麻のアトリエ（米子）
- ゴルゴ（スタッフ）（八頭）

4. お菓子

- snicle（鳥取市）
- 天テラス（岡山）
- パイボン畑（岡山）

5. ドリンク

- 酒うらら（岡山）
- Mellow Coffee（岡山）
- 月ノ輪（岡山）

6. パン

- やまこや（琴浦）
- もりのひと（八頭）
- マユミナルド（佐治）
- 野生堂（岡山）
- モンゴルパン（兵庫）

7. 手仕事

- きしもと工房（境港）
- 竹とうろう職人ともさん（倉吉）
- とりどり（鳥取市）
- miumm（鳥取市）
- てまえみそ（八頭）
- 谷ノ窯（岡山）
- REJOICE（岡山）
- 平松竹細工店（岡山）
- naco（岡山）

8. 医療

- あわ屋（米子）
- レイキハンドトリートメント（鳥取市）
- ひもろぎ庵（岡山）
- ときお（埼玉）

9. 子ども

- とっとり中部あおぞら
- 自主保育の会木とねっこ（中部）
- 青少年育成団体
- ポレポレキッズ（鳥取市）
- 空のしたひろば
- すぎぼっくり（智頭）

10. アート

- もりさや（南部町）
- まからも（岡山）
- 平井正也（大分）

11. スタッフ

- 谷上 和雄（佐治）
- 田中 豊朗（佐治）
- 上田 伸治（佐治）
- 南條 君則（佐治）
- 金田 透（佐治）
- 多田 伸治（佐治）
- 竹村 智行（用瀬）
- 幸田 直人（三朝）
- 得田 優（関金）



1.1 玄米 Café 日々の糧

- ・お店の名前 : 玄米 Café 日々の糧
- ・代表者氏名 : 細田 弘恵
- ・住所 : 鳥取県米子市明治町 197 ホテル真田 2F
- ・連絡先 : 0859-34-3773、HP (<http://www.iyashirochi.net/hibinokate/>)、FB (日々の糧)
- ・営業時間 : 昼 11:00~15:00 夜 17:00~21:00..
- ・ジャンル : 自然食・ベジタリアン・ヴィーガン

体にも心にもやさしい自家栽培の野菜とお米を使った美味しいマクロビオテック料理

・お店の紹介

『日々の糧』のメニューのメイン素材は 玄米、野菜、大豆です。

お客様に安心して食事を楽しんでいただくために 自分たちの手で土を育て、大地に種を撒き、自家栽培の安全な玄米と野菜を中心に 肉、魚、乳製品、卵、白砂糖、化学調味料など一切使用せず 植物性の食材で心を込めて調理しています。

そして そのお米ひとつぶひとつぶを感謝に満ちて食べることにより 免疫力を高め 体のバランスを整え 自然と調和した健康で美しいココロとカラダを保つキッチンとした食事を提案しています。

マクロビオティックの食生活で健康的な美しさを手に入れる。

日本で生まれたマクロビオティックの食事は、今や世界でも注目されています。

マクロビオテックとはギリシャ語で「大きな」という意味をもつマクロと、「生命術」を意味するビオテックを合わせた言葉で 長寿法を意味しています。

玄米と野菜を食生活の中心に東洋の陰陽思想を取り入れ よく噛んで味わうのがその基本。

雑穀や食物繊維たっぷりの自然な味わいのおかず 肉を使わない低カロリーのおかずなど からだの調子を内側から整えるお料理をお楽しみください。

自然のエネルギーをいただく。

玄米 ビタミンBやE ミネラル、豊富な食物繊維を含む 一粒完全養食の食材です

副菜 大地の力 根菜は体を温める働きをし 新陳代謝を活発にします。

太陽の力 太陽を浴びて育った緑黄色野菜のビタミン類は免疫力を向上させ 老化を防ぎます。

風の力 乾物は食物繊維を豊富に含み老廃物の排出を活発にするため美肌効果もあります。

海の産物 海藻はミネラルをたっぷり含み血液を浄化しカロリーがないのでダイエットにも効果的です。

季節の香り 作物の香りは脳を刺激して食欲をコントロールするほか ストレスを取る癒し効果もあります。

・メッセージ

私は鳥取県安来市郊外の自然豊かな森の中で暮らしています。

車もめったに通りません。別名 限界集落！ただ そんなネガティブな感情は大人になってから一度も抱いたことがありません。豊かな自然の恩恵を受け、山からの伏流水を飲み、薪で風呂を焚き 出来る限り循環させる暮らしは むしろ幸せで幸せで、時には幸福感で満たされ過ぎて申し訳ない気持ちになる ことさえあります。

木々に囲まれた小さな空には夜になると零れ落ちるほどの星が瞬きます。

朝は鳥のさえずりで目覚め 今日生かされていることに感謝し 畑に出ます。

清らかな凜とした空気と、生命力に溢れる無農薬の野菜たち。

自然の中にこだまする水の流れる音の美しきかな。

空を見上げて深い呼吸をすると 全てが事足りる、ないものはないことに気づかされます。

雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫な体を持ち、決して怒らず、地球を汚さず、謙虚に生き、母はいつも静かに笑っています。

母と犬と私のそんな暮らしの中で命を育むお米と野菜たち。

知恵と共に受け継がれた発酵食品、保存食の数々。

「日々の糧」では 作り手の顔が見える味噌や油を使い 日本の伝統的な食文化に毎日敬意を払い感謝し、たっぷりの愛情を込めて ひとつひとつ丁寧に 心を合わせて料理を作っています。

「食べ方は生き方」。人を良くする「食」の大切さにみんなが気づくことで 自然と調和することの大切さを知り 生き方が変わり 子供たちに明るい未来と恒久的な平和がもたらされると信じています。

みなさまのご来店をスタッフ一同たっぷりの笑顔でお待ちしています。

1.2 風実野

- ・屋号 : 風実野 (ふうみや)
- ・代表者名 : 中村 容子
- ・住所 : 鳥取県東伯郡琴浦町浦安
- ・連絡先 : 080-6337-3878 (ナカムラ) kangai@yahoo.co.jp

・活動紹介

ローフードを中心に、発酵食品を使った酵素が生きたお料理や、草木染めの小物や衣服を作って販売しています。

・ローフードについて

ローフードとは生の野菜や果物や木ノ実を 48 以下で調理したお料理のことです。加熱しすぎないことで、生きたまのビタミンやミネラル・酵素・ファイトケミカル・繊維などを摂ることができます。酵素が生きているため、体内の消化酵素を必要としない分、限られた体内酵素のうち代謝酵素の割合が増えることによって、代謝機能が高くなり、排毒や新陳代謝を促進します。「生って身体を冷やすんじゃない?」と思いがちですが、食べたとき一時的に体は冷えても、代謝が良くなることで、体温が上がり、冷えにくい体になっていきます。生の野菜や果実に含まれる色彩そのものに栄養素が含まれています。「虹のような食卓」そんな美しいお料理をぜひお楽しみください。

・想い

23年前、チェルノブイリ事故の年に長男を授かったことがきっかけで、消費生活より、持続可能な生活を求めて京都から鳥取県に移住してきました。自然に囲まれた古民家を改修し、くどと、五右衛門風呂での薪の生活からのスタート。そして、その時々家族のあり方から生活のスタイルも変わっていき、もう一度見つめ直そうと思っていた矢先に迎えた311。それが私自身の第2の転換期だった様に感じています。

衣食住を通して自然から頂いたものを無駄なく紡いでいく暮らし。

あの時に思い描いていた暮らしが、今若い世代を中心に盛り上がり始めているのを感じています。

そして、この「たんぼり村祭り」はとてもいい学びの場ではないかと応援しています。

「いのちが喜ぶ暮らし」へ。私もまた一足ずつ始めていきます。

1.3 天然食堂つきとおひさま

- ・お店の名前 : 天然食堂つきとおひさま
- ・氏名 : 小倉 千春
- ・住所 : 八頭郡八頭町福本 8 - 6
- ・連絡先 : 0858-73-0395
- ・WEB : ブログ (<http://blog/zige.jp/tennenn/>)、FB (天然食堂つきとおひさま)

・お店、活動の紹介

自宅の裏に廃材などを使って手づくりで建てた、ちいさな隠れ家的カフェです。オープンして1年ちょっと経ちました。自分で言うのもなんですが、とても居心地のいい空間だと思います。地元の自然農のお米や野菜えつくれたランチ、おやつなどを出させてもらっています。心も体も自然にそった暮らしをみんなでしていきたいという想いから、そんなテーマの映画の上映会やお話し会、ヒーリングやワークショップなども開催しています。

・子どもたちに残したいこと

今私は、ずっと夢だった森の中での生活を拠点としたいな~と思っています。もちろん子どもたちと一緒に。そしてそこに村やコミュニティができればな~と思っています。食もとても大事なツールのひとつですが、それ以外にも自然の中での自然な暮らしを、みんなで体感してゆきたい。

現在つきとおひさま自体、集ってくれる人たちのおかげでとても素敵な小さな小さなコミュニティがいつのまにかできています。それを自然が息づく山、森の中でさらに広げていくのが、次の自分のステップだと思っています。子どもも大人も、血が繋がっててもいなくても、色んなことをたくさん共有できたり体感しあえる地球の家族になればな~と妄想しております。そこに在る自然、植物、生物、動物、人間、地球全てが繋がって生きられる楽園をみんなで作りたいな~ そんなここからを創りたいし、今の子どもたちは私たち大人よりそこを無邪気に自然に備えていると思うから、子どもたちに残したいというより、彼らから学びたいこともたくさんあり、共にめいっばい楽しんで、新しい平和な愛いっぱい未来を生きてゆきたいな~と思っています。 いっぺんにはできなくても、少しずつ、今できることをホイッと、一歩でも踏み出していこうと思います。

1.4 野原のcaféぼすと

・お店の名前 : 野原のcaféぼすと

・代表者氏名 : 澤田 直見

・住所 : 鳥取県八頭郡智頭町早瀬 271-3

・連絡先 : 090-5252-6697、naomi.green@h7.dion.ne.jp

・WEB : HP (<http://www.nohara-29.com/>) FB (古谷 直美)

・お店・活動の紹介

「長い間、使われずに放置されていた古い郵便局の建物を、できるだけ自分たちで掃除、改装してできた、趣のあるcaféです。が、現在は基本的に休業中・・・今年の春から双子の娘が森のようちえん(すぎぼっくり)に通うようになり、「ちょっと時間ができそうだからできる範囲で再開しようかな~」なんて思っておりましたが、なんだか日々は慌ただしくかけ巡り、本格的なcaféの再開は目処が立っておりません^^;ただ、今もライブや上映会など、色々なイベントを開催しているので、こんな感じでこの素敵な空間を活かしてゆけたらな~と妄想中。あとは、「うさぎとかめのふたりごと」というテーマで言葉と絵を組み合わせた作品作りをします 最近の子育て中の想いを綴った「うたたね天使とおままごと」シリーズも段々と増えてまいりました^^ お店も描くことも細々と未永く続けてゆけたらな~と思っています」

・子どもたちに残したいこと

「とにかく平和、自然環境。そして、ふくふくほこほこ愛されて育ってきたという記憶。

今、わたしは好きなことをして、好きな人に囲まれて、とても楽しく充実した日々を送っています。これは平和と自然環境がなければ得られない幸せです。子ども達にも好きなことをして生きていってほしい。好きなことを見つけ、行動していってほしい。それができる世の中であってほしい。それができる地球であってほしい。

子どもの幸せのためにも、自分の幸せのためにも、「足るを知る」というということを本気で考えて、行動してゆきたいと思います。「もっともっと」と言い続けてここまで来てしまった現実を振り返りつつ、地に足のついた暮らしを取り戻してゆけますように・・・」

1.5 いなほ屋

- ・屋号 : いなほ屋
- ・代表者氏名 : 安斉 修
- ・住所 : 岡山県久米郡美咲町和田北

・店や活動紹介

3.11 以降、神奈川県から岡山県久米郡の山の中に家族で移住。陰陽と五行をベースとした完全菜食の薬膳カレーをケータリングや各種イベントにて提供させて頂いています。季節に合わせて独自に調合した有機スパイスを直前にすりつぶし、旬の野菜を使用した身体(臓器)にもこころにも優しく、子供から妊婦さんまで安心して食べて頂ける食を心がけています。

・自分の仕事(生業)とこれからのゆめ

食の安全、安心を目指し自家栽培の野菜作りに力を入れていきたいというのが現在の目標ですが、それと同時に薬草を使った医療も知識を深めていきたいと考えています。また、エネルギー(薪の生活、独立型ソーラーシステム、真空管温水器など)の自給も楽しみながら、持続していきたいと考えています。

現在の拡大し続けることを目指した経済と裏腹に、足るを知ることや無理をしない生き方。また、小さな地域で個性を活かし各々の本当にやりたいことをしながら、時間や曜日に縛られることなく、季節や天気寄り添った暮らしを家族と共に日々味わっていきたくと考えています。

2.1 ひとむすび

- ・屋号 : ひとむすび
- ・代表者氏名 : 小橋俊哉(スタッフ)
- ・住所 : 鳥取市鹿野町
- ・連絡先 : 090-5636-5166



・活動紹介

私の仕事はおむすび屋です。「ひとむすび」という屋号で「人とヒトがつながる」をコンセプトに週末イベント出店しています。平日はアルバイトをしており現在、おむすび屋一本で生活できるように奮闘中です。

鳥取県の鹿野町に住んでいます。そこでは「オリバー農園」という畑で鹿野の方達と野菜を育てています。この農園はできた野菜を畑メンバーで消費することを目的とし、ご自身が作りたい野菜を育てることができます。これからは取れたての野菜をその場で調理して食べる収穫祭をやりたいです。将来の夢はおむすび屋を構えることです。「人とヒトがつながる」をコンセプトに地域の方、知り合いの方などいろんな人が集まるコミュニティスペースのお店です。おむすびの材料は顔が見える生産者の食材を使い、安心安全なおむすびを提供します。ほっこりホッとする「ひとむすび」を目指して頑張ります。応援よろしくお願いします。

2.2 ひとやすみ

- ・お店の名前 : ひとやすみ
- ・代表者氏名 : 野々上 真由
- ・住所 : 鳥取県八頭郡八頭町才代 138-2
- ・連絡先 : 090-8990-8731

・ひとやすみ

~ “今” をちょっとだけ丁寧に生きてみる ~ そんな思いを軸に日々、愛しい時を紡いでいます。

今年になって鳥取に来るようになり(元は岡山!)その中ですてきな御縁が重なって、この夏、小さな喫茶店『駅

中喫茶ひとやすみ』をオープンしました。場所は若桜鉄道内の駅『八東駅』の駅舎。木造の建物の中で、おいしい珈琲と手作りのおやつを提供しています。おやつは自分の出来る範囲で、地元の食材やご縁ある方から材料を仕入れて素朴なおやつ作りを心掛けています。

・大事にしている事

自分でしごとをするようになったころからずっと大事にしている事は「“今”をちょっとだけ丁寧に生きてみる」ということです。これはひとやすみのコンセプトでもあり、私の生き方でもあります。後でもなく先でもない『今』に心が寄せられたなら、きっと既に『満ち足りている』ということに気づけると思ったからです。そして、この『ちょっとだけ』というもミソ。笑 正しい、正しくないではない、自分の内なる声を大事にして、変化を楽しんでいけたらと思っています。なので、『駅中喫茶ひとやすみ』では、今この瞬間をじっくり味わっていただけるような空間づくりをしていきたいと思っています。また、食だけではなく、今後は『暮らし』を考えた動きもしていきたいと考えています。(機織りがしてみたい!あとは陶芸。染物も好きです)まだはっきりとした事は決まっていますが、なん時も“今”に心を置いて、『ちょっとだけ丁寧に』日々を過ごして行こうと思います。ご縁に感謝 *

2.3 しろつめ農園

- ・屋号 : しろつめ農園
- ・代表者氏名 : 信清 建二
- ・住所 : 鳥取県八頭郡智頭町野原
- ・連絡先 : 090-3428-1083、shirotsumenouen@gmail.com

・メッセージ

諸行無常。万物流転。ぞうすい屋をやります。日本昔ばなしで、ある夜とつぜん訪れる旅人と分かち合う、イロリと雑炊。その時にあるものを、むだなく頂ける自在なシステム。しろつめ農園、一人になりました。愛が足りませんでした。これからは心を入れ替えて、開いて、本当の愛というものを感じて、鍋にも入れたりして、生きていきたいと思います。夢は、漫才とかコントやってみたいです。心から軽やかに笑える笑いを。

3.1 胡麻のアトリエ

- ・屋号 : 胡麻のアトリエ
- ・代表者氏名 : 丸瀬 和憲
- ・住所 : 米子市上福原
- ・連絡先 : 080-6344-7006、goma_2013@yahoo.co.jp

・活動紹介

2013年に設立された自然栽培農家グループ。金胡麻を中心にお米や野菜も生産する。生産、加工、販売までを一貫してデザイン。鳥取県大山の麓から「人と大地が近づく事」を思い描き、地球も喜ぶおいしい社会活動を繰り広げている。

3.2 ゴルゴ

- ・氏名 : ゴルゴ(小林 浩子)(スタッフ)
- ・住所 : 八頭町八東
- ・職業 : 百姓



・メッセージ

旅人やヒッピーに憧れた日々もあるが、まずは自分と向き合い、根をはやして自然と共に生きるすべを知る”百姓”を目指し、できることから実践し 8年目。たんぼり村には地元の百姓の方々の知恵や技、行動力に支えられていることが魅力。文や映像ではわからない「村」の体験、自然の力を感じ、いろいろな人と笑って暮らしながら、何らかの種まきをしたい。

4.1 sncl

・屋号 : sncl

・代表者氏名 : 秋山 美紀

・住所 : 鳥取市賀露町北二丁目

・活動紹介

主に、食やお菓子をイベント出店という形でだしています。なるべく身近で、安全と思える素材や水を選んでいきます。こだわりすぎこだわってわくわくする方へ！

空気、水、栄養の質によって 私たちの細胞、カラダは変わっていく。食や環境の向上は思考や行動も洗練され、食の改善は地球規模 世界の向上に繋がると確信しています。イベントを通して出会い、繋がっていくバラエティあふれるジャンルの表現者の方、お客様に学びつつ。キッチンをアトリエに食をテーマに提案していきたいと思っています。

4.2 天テラス

・お店の名前 : 天テラス (あまてらす)

・代表者氏名 : 清水 真理子

・住所 : 岡山県真庭市蒜山下長田 479-1

・連絡先 : 0867-44-1222、morinocafe@xmail.plala.or.jp

・WEB : HP (<http://larna.sakura.ne.jp/>)、FB (森のカフェ 天テラス)

・店や活動紹介

蒜山のメイン観光地から少し離れた森の中の隠れ家カフェです。

出来る限りオーガニックな食材 自家菜園や信頼できる生産者からの食材を使用した食事、スイーツ。ドリンクを森に囲まれた庭を楽しみながら召し上がって頂けます。時折、コンサート、ワークショップ、作品展、草木染教室などを開催しています。

・自分の仕事(生業)とこれからのゆめ

未だ人生の試行錯誤の途中で自分の生業は何かと問われれば、あれこれ欲張り過ぎて正直、はっきりと言えません(笑)カフェをやってきましたが今後は祭やイベント時の出店などを主とし普段は自給率を上げられるようもっと畑に力を入れたい。庭の手入れをもっとしっかりして素敵な庭(癒しのナチュラルエコガーデン)を作りたい。繊維の取れる植物や染料になる植物を育てて染織、服、小物、アクセサリ作り。自然を楽しめるゲストハウス、オーガニック植物性食材(白砂糖不使用)で作ったお菓子が食べられる土間カフェ作り、音楽仲間と楽しい時間、コンサート、ワークショップ、時には旅人など、ライフスタイルは半農半Xで美しい自然の恵みに生かされた質素だけど豊かな、ゆっくりとした時間が流れる平和で循環型の暮らしが私の夢です。

4.3 パイボン畑

- ・屋号 : パイボン畑
- ・代表者氏名 : 小山 慎一
- ・住所 : 岡山県赤磐市稗田

・活動紹介

岡山県赤磐市で、米、大豆を中心に、地球の環境になるべく負担をかけないように、命の源である水の正しい循環と、生命の多様性を尊重した自然農や、自然栽培、有機栽培などを行いつつ、畑や田んぼ、山の恵みを、おいしいスイーツに変えて、イベントや、マルシェ、有機マーケットなどで販売しています。

人類が70億人をこえて、世界各地の紛争は、まだ続き、2011年の震災からの放射能の影響が、未曾有の大災害をもたらそうとしている今日、足元の小さな命や、生命の多様性、水の循環や、身の周りの環境を考えることは、これからの命を紡いでゆく子供や孫、その後の世代のことを思うとき、たいへん重要であると思います。

20世紀の資本主義や大量生産、大量消費の現在の制度や、仕組みは、そろそろ限界にきていると思われます。この本来、美しい星の資源は限られており、ほんの一握りの裕福な人々のためのものでしかない現在のシステムを根底から改革しないかぎり、人類の明るい未来はないものと思われます。が、この後に及んでも、目先の利益や、他の生命体や命を尊重しない、無理無謀な政治や経済の運営を行うこの国の先導者たちは、破滅の崖っぷちを突っ走っているように感じられてなりません。これからの新しい時代の仕組みや、楽しくワクワクするような面白い制度を想像していく上で、このたんぼり村祭は一つの提案であると思います。少ないエネルギーをなるべく大勢の価値観を共有する仲間と分け合って、文化、文明を想像してゆく。イキルチカラでイノチヲツナグ 肩の力を抜いて、ゆっくり楽しんで生きていきましょう。人間に残されている時間はそう長くはないのですから。

5.1 酒うらら

- ・店の名前 : 酒うらら
- ・代表者氏名 : 道前 理緒 (どうまえりお)
- ・住所 : 岡山県英田郡西粟倉村影石 895 西粟倉森の学校内

・お店の紹介

酒屋です。自分が毎日飲みたいお酒を売っています。

カフェやゲストハウスやイベントなどにお酒を持って行って飲んでもらう、出張日本酒バーもやっています。

・未来に残したい酒と田んぼ

日本酒は米からできています。

「酒は、米のポテンシャルを越えられない」ある蔵元の言葉です。どんな技術をもってしても、もともとの米が良くないと良い酒はできません。健やかな米を育てること、それは健やかな田んぼをつくることと同じです。酒を飲むことは田んぼを守ることに繋がります。

良い酒をたくさん飲んで、田んぼを未来に残し、そこからできる米でずっと良い酒が造られ、飲まれるように、私は今日も酒を売り、そして飲みます。

5.2 Mellow Coffee

- ・屋号 : Mellow Coffee
- ・代表者氏名 : 布川 正幸
- ・住所 : 岡山県高梁市宇治町本郷
- ・連絡先 : mellowcoffees@gmail.com
- ・WEB : HP (<http://mellowcoffeejapan.tumblr.com/>)、FB (Mellow Coffee Shop)

・お店の紹介

2014 年春に栃木から岡山県高梁市に移住してきて、その年の夏からイベント出店を中心にオーガニック、フェアトレードなどを意識した自家焙煎のコーヒー屋を始めました。認証付きにこだわらず、周囲にもたらしている良い循環がある農園の活動なども注目して少しずつでも関わっていけたらと思っています。

・これからの事

これからも珈琲業界は目まぐるしく大きい方、大きい方に変化して時代についていけない農園、働き手がまた増えて困難な時代が来るのだらうなと思います。買い付けに行ける日が早く訪れて、早くそういった農園を視察し、手助けできたらと思います。

5.3 月ノ輪

・屋号 : 月ノ輪珈琲

・代表者氏名 : 東内 弘行

・住所 岡山県加賀郡吉備中央町豊野

・活動内容

自家焙煎の珈琲と手作りローチョコレートの販売。主にイベント出店と珈琲の量り売りを行っています。珈琲豆そのものが持っている味、フレーバーなど損なわないよう気をつけ日々焙煎を行っています。

私達は”小さな暮らし”を目指し岡山の山中で、お百姓をしながら薪や山水、ソーラーの力を借りながら暮らしています。この豊かな自然の中でゆっくりと暮らし、この環境を子供達に残していきたいなと思います。

6.1 やまこや

・屋号 : やまこや

・代表者氏名 : 藤田 浩一郎

・住所 湯梨浜町

・お店の紹介

湯梨浜チーム”やまこや”としてネルドさん+やまこや(元 時を旅する drink)で出店することになりました。軽トラックの上に石窯を乗せ、薪で焼いたあつあつピザは絶品です。楽しく本物を追究するネルド氏の姿にいつもハッとさせられます。やまこやは、これまで時を旅する drink として活動してきましたが、今までとこれからと見つめて活動の幅を広げるべく”やまこや”として新たな船出をすることにしました。

これまでのイベント出店に加え、子どもたちにむけた漬物ワークショップ・病院での手づくりドリンクの出張等、おこなっていく予定です。

あ~、おもしろい大人がいっぱいいるな~。...と、子どもたちもきっと思うはず！！

たくさんの方々とお会いできるのを楽しみにしていま~す。

6.2 もりのひと

・屋号 : もりのひと

・代表者氏名 : 関口 健二

・住所 : 八頭郡八頭町門尾 304-1

・連絡先 : 0858-71-0860

・WEB : HP (<http://mori-hito.com>)

・お店の紹介

『もり』と『ひと』を繋いでいくためにパン屋をやっています。森から燃料の薪やパンの材料をいただき、パンを焼いています。だんだんパンの種類が安定してきました。八頭町で無農薬で栽培されている方の五穀米を使った五穀山食や、五穀カンパーニュ。シンプルな食事パンとしてのバケットや、全粒粉100のパンなどなど。ときどき、木苺を採ってきて酵母にしたり、薪割り会を開いたりして、「もりのひと」らしくなってきました。

・森の暮らし

もりのひとの森に手が入りました。篠を刈り取り開拓の拠点の広場が出来ました。ここに小屋を建てたり、薪割りをしたり、ハンモックに揺られたりして過ごせる遊びの森にしたい・・・ですがまだまだ発展途上です。一緒に手入れをいたい方募集中です。

6.3 マユミナルド

・屋号：マユミナルド

・代表者氏名：中谷 真裕美

・住所：鳥取県鳥取市佐治町

・WEB：FB（マユミナルド）

・活動紹介

「マユミナルド」はこだわりの素材を使った野菜のサンドイッチのお店です。

固定種、自然栽培、有機栽培の野菜を天然酵母パンを使って、季節ごとの旬のサンドイッチを作っています。今年で3年目に突入した「とっとりオーガニックマーケット」で毎週土曜日の出店を中心に様々なイベントへ出店させていただいています。

私は、食べることは生きる事だと思っています。

大地からの豊かな恵みをどのようにして口に運ぶのかを考えて、自然と人、人と人、人と未来とのつながりを大切に、ココロとカラダに優しい、SLOWでFASTなサンドイッチを作っています。

・これからの夢

改めて自分の夢...と問われると、とても考えてしまいましたが、私の答えはいたってシンプルで

「ずっと佐治で暮らしていくこと」私は、生まれも育ちも佐治です。

少し遅い春の訪れや、夏の大地の力強さ、秋の実りの豊かさや、冬の厳しさ...佐治の四季を肌で感じて、太陽の光や、雨をありがたいと感じたり、月明かりを美しいと感じる、今の暮らしがずっと続くといいなと思っています。食べるものはなるべく自分で作れるようになるのも夢のひとつで、今年から小さな畑もはじめました。

今は父のやっている日本みつばちをいつかは自分で飼えるようになりたいです。畑もみつばちもいろんなことを教えてくれます。

大切な家族と安心、安全な食べ物、働く喜びがあって、そこに大好きな音楽があったら幸せです。

平和であることはもちろんです。

私の作るサンドイッチで少しでも喜んでもらえるとうれしいです！

暮らしと自然と人をつなぐサンドイッチを作って、佐治での暮らしを大切に楽しみたいと思っています。

6.4 野生堂

・屋号：野生堂（家族経営）

・代表者：五味 和也

・住所：岡山県美作市粟井村

・活動紹介

みなさん毎度です。野生堂というお店で出店している五味一家です。

10年前大阪から岡山にやってきました。話せば長くなりますが、岡山県へは野生動物の調査活動の為にやってきました。主にツキノワグマの調査や保護をやっています。人里周辺に出没する熊の捕獲、放獣や追い払いなどで、殺さずに山に返す取り組みです。

岡山に移住した最大要因ではありますが、クマ出沒時出動一回なんぼでは食って行けるはずもなく笑 現在ではクマも捕まえる何でも屋。という感じでしょうか。

例の如く金はなく、移住当初から電気水道ガスが無い小屋を、夫婦でコツコツ作って暮らして来ました。嫁さんの真知子はクマの専門家ではなく、マクロビとか料理の専門家です... クマの出動に備えながらも、百姓三昧の季節労働が日課です。15年位前からクマを通して親交が有る地域に最近越した関係で、今は地域の何でも屋的ポジション、色々と地域に使っていただいています。

田舎は本当に豊かで、最良の食材も手に入る、なんとかそれを活かしたいと思い、野生。というキーワードで、自分と関わりのある生き物や自然の事を出店を通して表現できたらな、と思っています。

6.5 モンゴルパン

・屋号：モンゴルパン

・代表者氏名：加藤 晴久

・住所：兵庫県三木市吉川町貸潮

・連絡先：090-2062-9620、halbal88@yahoo.co.jp

・WEB：ブログ(はるばる旅日記) F B (Mongol Pan)

出店情報 <http://d.hatena.ne.jp/halbalhal/> (『はるばる旅日記』モンゴルパン出店情報)

・活動紹介

モンゴルパンという移動販売の店をやってますと言うとみなさん様に不思議な顔をされます。当たり前ですよね。まず、モンゴルパンというものが何かわかりませんよね。モンゴルパン(以下モンパン)はモンゴルだけでなくアジア各地の遊牧民などに食べられている平たいパンの総称のつもりで僕は使っています。

僕は住空間に興味があり、建築を勉強しました。また、遊牧的生活にある種憧れを持っていて、移動住居であるゲルを自作したりしていました。そうこうしてるうちにモンゴル人の友人やモンゴル関係の音楽家などつながりができ、そのひとりにパンの作り方を習いました。一方で参加していたバンドの活動の一環であちこちの野外フェスティバルに行くことが多くなりました。フェスティバルの間の生活費や交通費を少しでも補填しようと、このパンをオリジナルに発展させて、それに具をサンドして売るようになりました。オリジナルモンパンの原型はほぼ出来上がりでした。このような平たいパンは乾燥アジアの各地に似たようなものがあり、ナンやチャパティ、エイシ、ローテイ、プーリー、ピデ、などの名前と呼ばれています。それでモンパンはそれら平たい乾燥アジアのパンの代表ということにしてもらってます。

現在はパートナーと共に移動し、自分の畑でできた無農薬有機の野菜や調味料を中心に作った具材などを挟んで提供しています。あちこちの音楽イベントやマーケット、マルシェ、町おこしイベント、劇団維新派公演などにお邪魔しています。

ゆくゆくは田舎に定住して、農園で作った作物ですべての調味料を自作し、米、小麦、家なども自給自足したいです。あちこち訪れた各国の美味しいものをたべてもらったり、日本やアジアを中心に伝わる昔からの持続可能で自然に近い生活技術、染め、料理、建築、音楽、美術など衣食住のさまざまな技術などを楽しく学びながら、同じような志向の友人などとも楽しく暮らしたいと思っています。

参考：ブログ『はるばる旅日記』モンゴルパン出店情報内『モンゴルパンってなあに』から

小麦がメソポタミア周辺で栽培されるようになると、すぐさま実を粉にして水を加えて焼くという元始のパンが食べられていたと考えられます。旅をする民族やさらに肥沃な土地を求めて移住する民族たち、あるいは隊商を組んで貿易に出発する人たちは、この粉にした小麦とその種を携えて西へ東へと移動し、移住してゆきました。その土地で種をまき、定住するものもあり、さらに旅を続ける民族、人々もいたでしょう。目的地に着いたり、どこかで野営する時などは、乾いた木や動物のフンを集めて、岩の上で火を炊き、熱く焼けた石板の上で、水で溶いた小麦の生地を焼きました。そのパンを主食にして、僅かばかりの野菜と干した肉などと共に食べました。そしてこのパンはエジプト、ペルシャ、インド、チベット、モンゴルなどへと伝わって行き、さらにベーリング海を超えた民族から、今、北アメリカ大陸と呼ばれる新大陸へと伝わってゆきました。北アメリカのネイティブ達はフライブレッドとよんでいます。さらに南へ伝えられ、今度はトウモロコシを原料に作られるようになりました。モンゴルパンはモンゴルの一部につたわるパンという意味だけではなく、この様に世界に広がった民族達の一万年の旅路を支えてきたパンの総称なのです。このパンはエジプトのエイシやインドのチャパティ、ナン、プーリー、ローテイ、パラタ、イタリアのフォカチオやピッツァ、ピタ、トルコのピデなどの原型です。西に進んだパンはカマドとイーストを得てさらに発展を続け、フランスパンやドイツのパンなどに分化してゆきます。日本は西回りのパンを明治以降食べることとなりました。おそらく東回りのこのアジアパンもきっと奈良時代には伝えられていたかもしれませんが。残念ながら気候の関係かお米を選んだからか、残ってはいないようです。ですが、日本人が色々なところから集まった民族のミックスだとかんがえると。シルクロードを経て半島から渡来した人々、呉の地方からやって来たひとたち、あるいはアジアをへて南の島々からきた人々の先祖乾燥アジア移動時代にこのシンプルなパンをずっと食べていたかもしれません。そうすればこれは僕たちのDNAの遙かな記憶を呼び起こす懐かしい味のするパンかもしれません。一万年の旅をしているパンなのです。焼きたてのパンにうちの畑で無農薬で育てた野菜を中心に作った具をサンドして、あつあつのホットサンドで召し上がって頂いています。

7.1 きしもと工房

- ・屋号：きしもと工房（木地師・塗師）
- ・代表者氏名：岸本（瀬戸川）和彦
- ・住所：鳥取県境港市財ノ木町50
- ・連絡先：080-3896-9414、wood.21.kazu@gmail.com
- ・WEB：FB（瀬戸川 和彦）

・木への想い

私の仕事は、木の食器やカトラリーを作ることです。仕上げには天然の漆やオイルを塗っています。どれもこれも豊かな森林が存在しているおかげでできる仕事です。

宇宙から地球をながめると、青色と茶色と緑色に分かれるそうです。青は海、茶色は砂漠や都市、そして緑は森林ですね。日本は、3分の2が緑色で、森林が多い国、自然が豊かな国です。

（森林率66%は世界15位 http://ecodb.net/ranking/wb_frstzs.html）

緑豊かな森林は植物だけが育っているのではありません。植物と動物が、お互いに助け合いながら生活（共生）することで、豊かな森が育ちます。ところが日本の森林の41%は、＜人工の森＝植林された森（人工林）＞です。スギやヒノキなどの人工の森には、動物たちがくらすのに十分な木の実などありません。ですから人間が手入れをしなくなった人工の森は、動物たちも近寄らない薄暗い＜死の森（放置林）＞になってしまいます。豊かな天然の森は栄養豊かな水をたくさん貯える自然のダム役もしてきましたが、根が浅く、落ち葉が堆積しにくい人工の森は保水力が少なく、自然災害の原因にもなっています。手入れをされなくなった日本の人工林が＜死の森＞になっていくのは残念なことです。

豊かな森林は壊しすぎればなくなってしまいます。人間が作った人工の森林は放っておくと壊れてしまいます。

そうすると、どちらも人間に災いをもたらします。そして森林を失えば、水を失い、やがて文明も失なわれてしまいます。

いま世界では、1分間に東京ドーム2個分、1時間では127個分の森林が消失しているそうです。人工林を活用しながら、水源ともなる天然林を増やすためにはどうすればよいか？森林との付き合いかたを考えなければなりません。これは自然豊かな日本で生活する私たちみんなの課題です。これからどうすればいいか、緑豊かな「たんぼり村」で、ちょっと考えてみませんか。

『森は海の母』ともいわれます。森林破壊に敏感なのは意外にも漁師さんです。無農薬の『奇跡のリンゴ』を作った木村秋則さんが注目したのは、森の土の微生物です。

(ギルガメシュ叙事詩より) むかしむかしの大昔、大きな木が何千本、何万本も生えている緑豊かな国がありました。ある王様が神殿を建てるために木を切ることを命じました。森の木は次々に切られて立派な神殿と立派な街ができあがり、人々は豊かな暮らしを楽しみました。木という木を切ってしまったこの国がそれからどうなったか？木がなくなった森はやがて砂漠に変わり、砂漠に囲まれた人々はそこで暮らすことができず、やがて街や神殿は砂漠の下に埋もれてしまいました。中東のレバノンには砂漠の国ですが、不思議なことに国旗の真ん中に大きな杉の木が描かれています。この昔話はレバノンで本当にあったお話です。

7.2 竹とうろう職人 ともさん

・屋号：竹とうろう職人 ともさん

・代表者氏名：森下 智道

・住所：鳥取県倉吉市八屋

・WEB：HP (<http://taketouroutomo.WEB.fc2.com>)、ブログ (<http://ameblo.jp/tomosantake/>)
ブログ (<http://blog.zige.jp/tomosantake/>)、FB (ともさん 竹とうろう職人)

・店と活動の紹介

竹とうろうの創作体験と展示・販売。地元の竹の有効活用のひとつとして、県内外で竹とうろうの出張教室や空間演出をしています。ものを創る楽しさと体験していただいたり、自分の感性や可能性に気づくきっかけになっていただけたらと思います。

・お題「夢」。

『世界中の人が笑顔で暮らせる世の中になった！』って言える未来を創りたい。そのための一つとして、『自分の無限の可能性と感性のすばらしさ』に気づくこと。気づけたら、人と比べることがなくなり、自分も人も尊重しあえると思う。人と違っていいし、みんな必要な存在なのだから・・・

7.3 染とりどり縫

・屋号：染とりどり縫(とりどり)

・代表：谷口 樹里

・住所：鳥取県鳥取市田島

・活動紹介

小学生～幼児の3人の子供を育てながら、草木染を施した製品(布ナプキン、ふんどし、母乳パッド、など)を作っています。すべての素材を自分自身の目で確かめ触れて選び、使うと体が喜び、心が「むふっ」となるかわい！をたくさん作りたと思っています。また作って販売するだけでなく、季節を感じ、自身で作る楽しさや、自分の体と心に向き合う時間を持ち日々を愛しんでほしいという想いを込めて、市内にある高砂屋や自宅などで「ちくちくの会」「染の会」を開いています。

・これからの夢

いつか作りたい人が集まる「とりどり」工房をすることです。布ナプキンに関しては、「ひろがれひろがれエコナプキン」という本を出版されている角張光子さんの想いに賛同し、普及活動としてさせてもらっています。いつか初潮教育の場で、子供たちがケミカルナプキン以外の選択が出来るよう、布ナプキンを知ってもらえるように働きかけていきたいと思っています。

7.4 miunm

- ・屋号 : miunm (ミューン)
- ・代表者氏名 : 三谷 さやか
- ・連絡先 : sanmaica88@gmail.com

・活動紹介

毎週土曜日に浜村の丘で開催のオーガニックマーケットでお菓子や軽食を出店しています。また草木染めで服や布ナプキンをつくったりもします。染料は季節ごとに力強く自生している草木をつかっています。古いかまどで竹を燃料に火をおこし、自然の循環で染めています。

・自分の生業

【着なくなった古い服や着物の生地×身の回りに自生している草木で染める×刺繍する=どんな風に蘇る?】
こころときめいたり、きらめくものをひとつひとつ集めてそこから何が生まれるか、いつも実験をしているみたいに服や小物をつくります。
野菜中心のお料理や優しいお菓子はいつも目を閉じて、材料の野菜たち、野菜をつくったり届けてくれた人たち、太陽や土・風・水に「ありがとう。」とこれをこれから食べる人たちの笑顔を思い浮かべてつくっています。これはオマジナイの様な魔法の様なもので、とても大切!ほんとうに野菜たちが美味しくなってくれるし、私自身も幸せに包まれるんです

7.5 てまえみそ

- ・屋号 : てまえみそ
- ・代表者氏名 : 石井 優子
- ・住所 : 八頭郡八頭町才代

・活動紹介

空山ポニー牧場の中でお店やさんごっこのレベルですが、ちいさいけど、ホンモノを扱っていきたいと思っています。買い物は投票だし、国会議員にならなくても、社会を変える力は財布を握る一人ひとりにあると思っています。こんないいものあるよーっていう提案 ができたらいいなーと思っています。

・自分の仕事とこれからの夢

来春から、「空山ぼくじょうようちえん ぱっか」を開園します。
なんだか、ちょっと勢いつけて、一步踏み出してみようと思っています。いつかそんな風にやりたいよね、空山ならできるよねって、夫の人生の最後ほうで、夢を語りあったこと だから。外でたくさん遊ぶこと、馬にのること、ごはんをたくこと、うたをうたうこと、絵をかくこと、ケンカをすること、泥んこになること、大きな声をだすこと、わらうこと・・・そんな、あたりまえの大切な日々の中で、こどもがしなやかいけいけないことを丁寧に積み上げていきたいのです。

7.6 谷の窯

- ・屋号 : 谷ノ窯
- ・代表者氏名 : 堂下 了一
- ・住所 : 岡山県久米郡美咲町塚角
- ・連絡先 : 0868-64-7009

・活動紹介

土との関わりのなかで。どこまで手を加えていいものか、どこまで任せればいいのかってことはいつも思ってます。触り過ぎるとダメになるし、何もしないという訳にもいかない。そんな狭間を行ったり来たり。人と自然の関わりもそんな感じなんだろうと思う。どこまでやればいいのか、どこまでの技術なら許されるのか。

一つ言えることは、できるからといって全部やっちゃうとダメになっちゃうってこと。これは焼き物の話。

もう一つ言えることはそんな狭間の中で自分を超えたいいものができるってこと。

やり過ぎちゃったような感じのある今の世を少し考えてみよう。

あれがあるとすごく便利なんやけどなー・・・まあいいか、って感じに。

きっといいものが生まれると思います。

どこで汲んでも飲める川。転げ回って口にはいっても大丈夫な土。鼻毛が妙に伸びない空気(笑)

きれいな土と水と空気、これだけあればきっと楽しく暮らしていけるでしょう。

さちあれ。

7.7 REJOICE

- ・屋号 : REJOICE
- ・代表者氏名 : 田浦 真喜子
- ・住所 : 岡山県加賀郡吉備中央町
- ・WEB : HP (<http://rejoice.ocnk.net/>)

・活動紹介

自宅にて洋服を制作をしながらネット販売とイベント出店をしています。

・自分の仕事とこれからの夢

現在二歳半の息子は今も授乳が続いている為、授乳中のお母さんでも可愛い着れる服があったら嬉しいな〜と、そんな服作りに力を入れています。絵を描くことも大好きなので、素敵な文章が思いついたら、いつか絵本を描いてみたいです。人見知りな性格でしたが、作品を通しての人とのコミュニケーションがどんどん楽しくなってきました。平日は製作、週末は家族でイベント出店をしながら人と繋がっていく今のライフスタイルが好きです。これからも各地に足を運んで家族で素敵な思い出を沢山作っていききたいのと合わせて、二年程前から暮らし始めた山裾のお家をどんどん素敵な場所にしていきたいです。みんなが歌ったり、踊ったり、笑顔溢れる世界が好きです。

7.8 平松竹細工店

- ・屋号 : 平松竹細工店
- ・代表者氏名 : 平松 達夫
- ・住所 : 岡山県真庭市勝山 719-1
- ・連絡先 : 070-5671-1836 、 ake-kago-ya64@willcom.com

・活動内容

私の自宅兼工房は、岡山県北真庭市の城下町、旭川沿いにある勝山町並み保存地区の1つ外れた武家屋敷のある「うえのだん」と呼ばれる通りにあります。

蒼竹で主に、勝山竹細工(国指定伝統工芸品。岡山では主に備前焼き、全国で竹細工では、別府と勝山だけです)の製品である実用品を製作、販売しています。

依頼あれば、籠を編むのみのワークショップから実演・解説付きの初心者講習もしています。今回は、普段していない内容の出店をしてみようと企画しました。昔といっても昭和30年ぐらいまでは、各地に籠屋もあり竹を割り編む風景も当たり前だったと聞きます。今では、まず目にもすることもない昔の農具を製作・実演しながら、なんでも質問にも応えようと思います。さらにかつて実際に使われていた竹製の農具や本や写真を色々と持ってゆき展示しますので、先人の培われた知恵や技術に見て触れて、昔の暮らしに思いをよせて下さればと思います。もちろん少しですが私の製品ももってゆきますので手にとり気にいって下されば購入してくだされば幸いです。

・自分の仕事(生業)とこれからのゆめ

私が勝山に移住したのは30歳の時です。それまでは、1人暮らしもした事はありませんでした。移住を決めた理由は、竹細工職人さんばかりおられる月田という部落にお住まいの腕ききの職人さんの近くに寄り住んで見学に行きたい時に、すぐに行きたいという理由だけで移住しました。当然、その時は竹細工を生業にしよう、したいという気持ちもありませんでした。

そもそも当時、職人さんは80歳という高齢で今を楽しんで仕事されており(だから通えたのですが、全盛期の忙しい時は門前払いでしょう)、弟子にはなれず、あた技がすごすぎて見て真似をしてもできない日々だったのです。次の世代の50、60代は全く継がれていませんし、少しでも身につけたいと毎日のように通いますが、仕事が早いし見たいところが見れません。まずは、一つ一つの籠の製作映像を記録しました。それに1年くらい費やし、険しいがそれでも伝統の大ぞうげ(一斗ザル)をつくりたいと思っていた矢先に頼りにしていた職人さんが急死されました。もうやるしかないとアルバイトをやめて持てる時間を全て竹細工に専念し看板をかかげ、もうすぐ(11月)で6年が経ちます。

手さぐりが多い中、失敗を繰り返し遠まわりしてきましたが、製品じたいは、胸を張って出せるようになりました。今では、竹や手仕事も、見直されたものもあり需要の方が高くなりました。それでも今の社会にあわせて生きてゆく(年収500万くらい?)ほど稼ごうと思うと無理ですし、持続可能ではありません。

移住してからは、まずは、勝山独自のヒゴづくり技術ができるようになる。製品を作れるようになるのに、長い月日を費やしてきましたし、ずっと目標の中、少しずつですが、できるようになる実感がモチベーションでした。でも仕事として生業とするには、もっと楽に早く良い製品ができるようにならなければいけません。実用品では値段をおさえるには、量がつくれないうけないからです。私は今38歳です。当初のプランでは、パートナーを見つけ田畑のある古民家で、火のある暮らしを半農半竹で始めているはずでした。

最近、今までにない感じの手ごたえというか、技術取得や経験値の向上が年々増しているのも、後2年の40歳まで竹細工中心の生活で、技術を高めようと思っています。といっても、この激動の時代不安ばかり募り工房にばかり籠もってはいけないと思い、たんぼり村連続ワークショップの7月にあった自給自足キャンプに参加し、今回のたんぼり村まつりにも出店しました。

これからしたい事、これからの夢と言われますと、今までずっと自己中心できましたので、まずは自分以外の愛する人、モノを見つける事でしょうか。自分の事ばかりで動くのは限界があります。湧いてくるエネルギーの質や量も違います。慣れというのは良くもあり恐いです。愛する人がいないのを孤独だと言われる人もいました。多勢でなくていいので、まずは1人。そしていつか、そんな愛する人達と目の見える範囲でつながり思いやり循環する小さな自給社会の中で暮らせてゆけたらと思います。近代文明が入る前にあたり前に、あったであろう農村里山の姿でないかと思えます。当然、かつての日本の暮らしを私は体験もしていないし良いところしか見れていません。それどころか、未だ便利な暮らしを手放せない知識ばかりの頭でっかちの現代っ子です。

環境破壊による異常気象、さらに戦争や原発放射能の汚染...色々を知ると今さらのんびり何やっても手遅れと思うし、自然豊かな日本が、トップクラスに原因を作る悪い国にも思います。

細かく考えるとネガティブ思考ばかりで、もう無理！となるので元気が出るよう動いて1つ1つ目の前の事に対応していくしかないのでしょうか。まずは最小単位の自分の幸せ、それから家庭の幸せ...それが拡がれば国は平和との事です。長くまとまらない文章になりましたが、よろしくお願いします。

7.9 naco

- ・屋号 : naco
- ・代表者氏名 : 佐伯 晃男
- ・住所 : 岡山県和気郡和気町清水
- ・出店内容 : 草木染を軸にテキスタイル、フェルト、糸紡ぎ、ニット等

・メッセージ

できる事は自分です。つくれる物は自分でつくる。1つずつできる事を増やす。それら続ける。仲間ができる。最初は小さい輪が大きなスパイラルになる。楽しい。みんな楽しい。「つくること、つづけること、つながること」でのひらまつりもやってるよー

8.1 あわ屋

- ・屋号 : あわ屋
- ・代表者氏名 : 本田 かずみ
- ・住所 : 米子市両三柳 2676-1
- ・連絡先 : 0859-57-2862
- ・WEB : FB (あわ屋)

・活動紹介

あわ屋は、元助産師が営む、いのちとくらしのお店です。ナチュラル&オーガニックな食材・衣類・生活雑貨・布ナプキン等が並び、「医・衣・食・住・心・体・魂」の提案の場(play field)として、開業7年をむかえました。

・自分の生業とこれからのゆめ

私は子供のころから、大きくなったらお母さんになりたい！！と想っていました。そして今、私の仕事は家の中でも外でも「お母さん(Mathering)」です。朝一番に子供達と顔を合わせたらにっこり笑顔で「おはよう」お客様のご来店時も同じように心をこめて「いらっしゃいませ。どうぞ～」とおむかえします。お客様と我が子供達への接し方は同じです。『いつでもおうちに帰っておいで！！しっかり休んだらどんどん自分らしく羽ばたいてね』そんな気持ちで存在(位置)しています。あわ屋は特別なものなどは何もない、普通(普遍に通ずる)の場所(時空間)をめざしています。

今後の夢は『大きな家族』。子産子育ての初めの数年はわからない事や不安も色々あります。妊娠中からの食事や生活の仕方は、その子の一生にも関わってきます。おっばいは不安がなくなっただけであふれるように出てくる事もあります。母や父が自分自身を大切にはぐくみ、自分の子供も他の子供も同じようにいつくしみ、共に育ち合えるような、自然と共生した空間を創造するのが私の希望です。

8.2 レイキハンドトリートメント

- ・屋号 : レイキハンドトリートメント
- ・代表 : 居川 紀代美
- ・住所 : 鳥取県鳥取市
- ・連絡先 : 090-7375-4790

・お店紹介

レイキを流しながら、植物性のアロマオイルを使って肘から指先までゆっくりとマッサージをさせていただきます()

・子供たちに伝えたいこと

...これからの世の中は、もっともっと便利になって行くと思います。

ここまで本当に必要なことだろうかと思えます。

便利になって行く人と人との繋がりがだんだんと欠けて行く感じがして、私はハンドトリートメントを通じて人の温かさそして繋がりを大事にして欲しいと思えます()

そうすると、人を傷つけたり犯罪を起こすことは少なくなって行くと思います。

全ては、愛情をもって人と接することだと思えます()

8.3 ひろもぎ庵

- ・屋号 : ひもろぎ庵
- ・代表者氏名 : 下山田 吉成
- ・住所 : 岡山県久米郡久米南町上粕
- ・WEB : HP (<http://www.himorogian.jp>)
- ・出店内容 : ホメオパシー

8.4 ときお

- ・代表者氏名 : 土生 とき雄
- ・住所 : 埼玉県
- ・職業 : 鍼灸師

・活動紹介

私は鍼灸を生業としてまして、そして鍼灸が好きでして、しかし好きなものに関して言葉や文字で表現するのは難しいかと。好きになればなるほど。まるで言葉を使えば使うほど薄くなっていくようで。好きが薄いから言葉で補っているようで。(単に自分の頭の中の辞書が薄い気もしますが。)

教科書的に自分の生業を言葉や文字にすると、「生き物はどうしたら優秀な子孫、遺伝子を残せるか、どうしたら楽しく生きれるかを命を削りながら求めているのだと思う。人間もたぶん然り。それを手伝うのが私の生業です」という感じです。

9.1 とっとり中部あおぞら自主保育 木とねっこ

- ・屋号：とっとり中部あおぞら自主保育の会 木とねっこ
- ・代表者氏名：牧田 靖子
- ・住所：鳥取県東伯郡北栄町
- ・連絡先：090-4146-2131 (マキタ) kitonekko@gmail.com
- ・WEB：HP (<http://kitonekko.tumblr.com/>)



・活動紹介

鳥取中部のあおぞらの下、自然の中でのびのび、のんびり子育てをしたいと思ったお母さん達3人で2014年から0歳からの子ども達とお家の方を対象にした「おさんぽ会」を始めました。それに加えて2015年からは子ども達の日常的な育ちの場にしたい思いから自主保育型の「森のようちえん」を開園しました。

木とねっこの子ども達の日々は、おさんぽ、畑仕事、たまに手仕事(たき火ご飯作り、季節の保存食作り)・・・とってもシンプル!でも移り行く自然の中だと、毎日が違う楽しみと発見にあふれています。子ども達は心とからだ全部でそんな日々の出来事を吸収し、笑い、考え、時にけんかし、成長の糧としていきます。

子育て、日々の生活、様々な情報が溢れて何を選択すればよいのかわかりにくい時代、彼らの自然の中での姿は私達大人に大切なものは何かを教えてくれているようです。そんな彼らと日常を過ごす自主保育は何よりも親が育つ場、子ども達が親を育てる場だなあ・・・ぐずる兄弟を「わはは」と笑顔で1人をおんぶ、1人を抱っこ、そんなスタッフ母さん達を横目にこの活動の醍醐味をかみしめています。

・自分の仕事(生業)とこれからのゆめ

お母さんの仕事は、掃除、洗濯、料理、育児、ホームドクター・・・(ここでは自分の日常と重ねて「お母さんの」としますね)。掃除や洗濯は大気や水と、料理は農業(土)とつながり、子ども達は未来であり、たとえばみるなら家庭とは一つの地球。この壮大な母親業を深めていきたい。その価値を家仕事にはげむたくさんの人達とたたえあいたい。そして受け継がれてきた母たちの技や思いを学び、次の世代へ。

・・・「ねっこ」を育む日々を今もこれからもいつくしみたいですね。

9.2 青少年生育団体 ポレポレキッズ

- ・屋号：青少年育成団体 ポレポレキッズ
- ・代表者氏名：三村 清
- ・住所：鳥取県東伯郡湯梨浜町田後
- ・連絡先：090-7898-4136 (ミムラ)
- ・WEB：ポレポレキッズ (FB) 遊遊ひろば (FB)



・今回の出店紹介『子どものための“火遊び”屋さん』

火遊びするよ! 巻き割り、火起こし、焚き火、野焼きパン、クルミ焼きなどなど・・・焚き火を囲んで一緒に楽しく盛り上がりましょう!

・活動紹介

子どもと青年(主に大学生)が体験的で継続的な活動を通して育ち合うことを目的としています。子ども達と宿泊キャンプやデイキャンプといった野外での活動を行い、非日常的な活動を通して、子どもの育成、青年の自己啓発、そして地域の青少年育成活動の活性化を目指しています。

・自然が子どもを成長させる

ポレポレキッズの活動において、キャンプカウンセラー(スタッフ)の役割は遊び場の提供者であり、キャンプカウンセラー自身も子どもにとっては『自然』と同じく、自分を取り巻く刺激の一部となる。キャンプカウ

セラールは、子どもが『自然』とどのように対話しているのかを観察し、理解しようとしなければならない。そうすれば、子どもは自分自身が評価される対象ではなく、理解される対象なのだ気づくはずである。その結果、評価や期待を気にすることなく、内発的動機に基づいて自由な行動ができるようになる。

自由な行動・・・そう、それは子どもの特権ともいえる言葉だが、現代においてはスプイルされがちなことはご存知のとおり。でも、それこそが人間の成長に欠かすことのできない要素であることは、今さらいうまでもない。そこに、ポレポレキッズ の存在意義とこれからの可能性がある。

“まずは認める。”これは私が子どもと関わる上で最も大事にしていることの一つだ。一人一人に個性はあって当然で、良い悪いはない。森に同じ木は一本としてないし、枝ぶりだってそれぞれ違う。曲がっている曲線が魅力的なことだってあるはず。そんな森の中で、それぞれ違う子どもたちに『みんないいね!』と認めることが私の基本だ。例えば、指が痛いと訴える子どもには、たとえ血が出ていなくても絆創膏をはってあげる。すると、子どもは大切にされた、わかってくれたと思い、満たされてゆくのではないだろうか。

泣くことだって悪くない、少々ケガしたっていい。あくまでも子どもが主体的に自由に遊び、感じる。そうすれば、子どもたちは自分で考え、そして子ども同士のコミュニティの中で、自己の役割や他者との協調性を自然と意識することができるようになる。遊びが主であればこそ、本能に基づいて共同作業も行うようになる。

そして遊びの場で得られるこれらの資質・能力は、その多くをキャンプのような直接体験活動、もう少し詳しくいうと異年齢交流、友達との遊び、協力的な活動、冒険活動、自然体験、動植物との関わりなどから得られるものだと考える。さらにこれらの資質・能力は、子どものときに身につけておくべき力であると同時に子どものときが一番伸びる力でもある。子どもたちに元々備わっているであろう、これらの資質・能力をさらに磨き上げていくために、子どもたちに様々な直接体験活動の機会を提供できるポレポレキッズ でありたい。

子どもも大人(大学生)も共に成長できる場としての活動を目指し、自然の中でのダイナミックな活動を通して、子ども同士、大学生同士、子どもと大学生が関わり合い、自分を磨いていけるようにポレポレキッズ はがんばります!

9.3 空のしたひろば すぎぼっくり

- ・屋号 : 空のしたひろば すぎぼっくり
- ・代表者氏名 : 熊谷 京子
- ・住所 : 鳥取県八頭郡智頭町大屋
- ・連絡先 : 090-1187-0802 (クマガイ)
- ・WEB : HP (<http://marutanbou.org/>) ブログ (<http://blog.zige.jp/sugiboccuri/>)
FB (空のしたひろば すぎぼっくり)



・お店、活動の紹介

晴れた日も、雨の日も、雪の日も、毎日空のしたで過ごしている森のようちえんです。

智頭町森のようちえんまるたんぼうの第二園目として3年前に開園しました。

2歳児から5歳児までの15人の子ども達が、14カ所以上ある智頭のフィールドでお散歩を中心に活動しています。毎週月曜日には羽釜でご飯とお味噌汁を作っています。

智頭の美しい自然環境に囲まれながら幼少期にしかない感性と、自然に対するホンモノの価値観を磨くことで生きる力と心の土台を形成しています。

また、親もすぎぼっくりの保育に関わりながら子どもとしっかりと向き合い、本当の意味での親として成長を遂げています。園での活動にも積極的に参加してもらい、親同士のネットワークもしっかりと結びながらアットホームで温かい、母と子ども為の森のようちえんを展開しています。

・メッセージ

森のようちえん まるたんぼう は、昔ながら（昭和以前？）の子育てに憧れ、豊かな自然の中でのびのびと育て欲しいという思いから母親が中心となって立ち上げました。

昔、親は仕事で忙しいから兄弟、姉妹やご近所さんの力を借りて協力しあいながら生きてきました。それは、現代人が失ってしまった部分でもあります。家族がしっかりと向き合い、地域と繋がって生活することは、労わりや優しい心を育てる為に不可欠な事でもあります。すぎぼっくりでは、森のようちえんという保育の中で、家族同士が子育てを通じてさらに愛を深め、地域との関わりが生活に繋がっているという事を学んでいます。

人間は本来、いろんな可能性を持って生まれてきました。私達は、子ども達の存在を認めることで生まれ持った可能性や個性、命の輝きを輝かせる為の見守る子育てを大切にしています。幼児期の柔らかい心を解放しながら、自然の中で思いっきり遊びます。自由という時間を私達大人が保証することで、子ども達はのびのびと健やかに育っています。

そして、日々の保育の中に積極的に取り入れていること、それはお絵かきや、工作、体操などではなく、先人から受け継いでいる日本の知恵や技術を子ども達に伝えることです。春は田植えや野菜の種まき、夏には梅を干したり野菜の収穫や藍染、秋には稲刈り芋ほり、冬には餅つきや味噌を作ります。また、麻を種から育て紙漉きをして卒園証書を作ります。

地元の方にその技術を教わりながら日本の文化に触れ、その尊い価値を知ることが出来ます。便利で豊かな生活ばかりを求めてきた現代社会は、その素晴らしい伝統を失っていくばかりか、その代償として美しい環境をも破壊し、天災で多くの人間の命を奪っています。命の尊さ、地球の偉大さを子ども達に伝えていくことで、大人を含め 生きる為の先人の知恵 を心から敬う事ができるのではないと思います。

しっかりと大地を踏みしめて、太陽の光に感謝して、海のような広い心を持って、土の匂いを感じながら、「生きることが心から楽しくて幸せだ！」と思って命を全うできる人間に育てて欲しい。というのが、すぎぼっくりの保育理念でもあります。

10.1 もりさや

- ・代表者氏名： 森田 さやか
- ・住所： 鳥取県西伯郡南部町

・活動紹介

兵庫県加古郡稲美町出身。

2011 年からフリーランスの唄うたいとしてギターの弾き語りをしたり、新感覚紙芝居よしととひうたの音楽担当 hiuta とのユニット「マイトリー」の ボーカルとして活動。アートスタート活動（0歳から就学前の子どもたちが大好きな人とともにプロの舞台を楽しむ"アートとの出会いの場"をつくる活動）にもかかわる。

山陰地方を拠点に、北海道から沖縄まで、ご縁の繋がった街へ歌いに行っている。学校、幼稚園、カフェ、ギャラリー、サロン、個人のご自宅、福祉施設、イベント、牧場、田んぼ、原っぱ、浜辺、お寺等色々な場所で歌っている。形にとらわれず、身近な距離で、日常になじむ素直なうたを歌い、沢山の笑顔に出会いたい。

- ・子ども達に伝えたい 表現すること

芸術の世界、音楽の世界、歌の世界も、学問として確立されたそれらを勉強すればするほど奥深く広がっていきます。私自身、日々その世界に圧倒されながら、それでもやっぱりうたう事が楽しくて、うたっています。

でも、本音としては、生まれながらに誰もがアーティストで、暮らしそのものが表現の場なのだろうなと思っています。それを、昔の人達はごく自然にやっていたのだろうな。

表現だなんて思わずに。百姓という仕事はまさに。だから私も、暮らしそのものをもっと見つめていけたらと思います。たんぼり村まつりで、新たに見える事があるのかな？とても楽しみです。

10.2 まからも

- ・屋号 : スパイス料理 + 雑貨 ハルカムイ
- ・代表者氏名 : 坂爪 章恭
- ・住所 : 岡山県久米郡美咲町

・活動の紹介

2010年3月、神奈川県横浜市にて「カレー屋ハルカムイ」オープン。オープンして丸一年。震災を機に、おなかに宿るいのちと共に、岡山へ移住。いつかは、田畑でつくる野菜やお米で、ハルカムイのごはんをつくりたい、という想いと、子どもと一緒に自然の中で暮らしたい、という想いが、岡山へのご縁へと繋がりました。現在、スパイス料理はイベント出店やケータリング、雑貨は津山の Jasmine Doyle さん、Minimal Bush さんに置かせていただいています。歩みはゆっくりですが、私たちの思い描く暮らしへと、ゆっくりシフト中。田畑をしながら、唄い奏でつつ、家の空間づくり、モノづくりできる、そんな暮らしへ～

今回、たんぼり村まつりは、初参加。とても楽しみです。今回、残念ながらスパイス料理はできませんが、手づくりの雑貨と楽器、テントを持って遊びに行きたいと思っています。二日目のライブで私たち夫婦のユニット「まからも」で唄わせていただく予定です。みなさんにお会いできること、楽しみにしています。

10.3 平井 正也

- ・代表者氏名 : 平井 正也
- ・住所 : 大分県別府市

・活動紹介

1977年 新潟県出身 大分県別府市在住 1996年早稲田大学の音楽サークルでマーガレットズローズ結成。RCサクセション、ブルーハーツ、フィッシュマンズと続く言葉の強いロックの血筋。

2000年カフェ・オ・レーベルからCDデビュー。現在までにアルバム7枚、ミニアルバム2枚、ライブDVD1枚をリリース。最新作は「darling」(2010年、ミディ) 常に音楽界の流行から2、30年の遅れをとりながら初期衝動を貫き通す稀有な存在。

友部正人のバックバンドとしてアルバム『Speak Japanese American』(2005年 ミディ)に参加。高田渡トリビュート『ごあいさつ』(2005年 MIDI CREATIVE)では「自転車に乗って」を演奏。

ドキュメンタリー映画『フツの仕事がしたい』(土屋トカチ監督 2008年公開、2009年 ロンドン レインダンス映画祭 ドキュメンタリー賞受賞)のエンディングテーマに「ここでうたえ」を提供。

ライブバンドとして全国のライブハウスやフェスに出演。銀杏 BOYZ、ハンバートハンバート、フラワーカンパニーズ、アナログフィッシュ、曾我部恵一 BAND、キセルなど実力派アーティストと共演を重ねる。

2011年、熊本に移住し半農的な生活を送りながら精力的にソロでライブ活動を展開。

2013年には熊本で遠藤賢司、ふちがみとふなと、塚本功、ラキタ等豪華メンツを集め野外ロックフェス「はるかぜ2013」をプロデュース。

2014年5月、自家農園を持つヴィーガンカフェ「Arbaro」の立ち上げに携わり、コーヒー焙煎家としても活動する。2015年より音楽のそばにある暮らしを実現するため大分県別府市に拠点を移す。

心臓にギターをつなぎ、毛穴でうたうようなライブはたった一人でも大音量のバンドに匹敵するほどのテンション。その不良性のかげりもないたのしくて美しいロックンロールは音楽ファンのみならず、乳幼児から御年配まで幅広い支持を受ける。



11.1 谷上 和雄

- ・スタッフ氏名：谷上 和雄
- ・住所：鳥取市佐治町中
- ・職業：林業、百姓



・私たちが願うこと

昭和30年代小学生だった私、友達がアメリカのテレビを見て、我々が大人になったとき、車を持つことが出来るような暮らしになってるだろうか？と言っていたが、今や車は元より、ありとあらゆる物に囲まれての生活。日本人は道具（物）を1人平均1万点以上を持ってると言われる豊かさです。この豊かさは何処から来ているのか？そして「心」も豊かになっているのか...？我が国は成熟したのでは？これ以上の危険を含む、原発、それらを抜きにしての繁栄は考えられない。現時点では、決してそれらを否定するのではなく、少しずつ安全なエネルギーへの転換を目指すこと、人間の英知をもってすれば可能では...？今、我々に出来ることを。

「昔の暮らしに未来を探る」のコンセプトの下に集ったメンバーで、食とエネルギーを考え、体現する集まり「たんぼり村」を今年も開村します。再生と持続が可能な薪で煮炊きし、安全な太陽光発電での電気供給で過ごす3日間、あなたも是非参加して村民に。先人達よ、よい知恵があったら教えて！若者達よ、受け継いでください。

11.2 田中 豊朗

- ・氏名：田中 豊朗
- ・住所：鳥取市佐治町余戸
- ・職業：百姓



・孫ターンに希望を託して

川に潜ってアユやジャコを突き、竹の手作りスキーで滑り、水車小屋に落ちたり、遊びと言えば自然が相手。たんぼ仕事は単純で嫌で逃げ回ってたのに、還暦過ぎて1人黙々と稲刈りとハザ架けを楽しんでる。USJ もディズニーも行ってみたけど人工的なものは底が浅くて知れている。40年の広島生活で都会の便利さと限界を判った。「じいちゃん一緒に暮らそうか？」って孫が言ってくれるまで、あと15年、佐治大好きにするために一緒に遊び回り...彼が佐治で住み食べていくためには何が必要か？グリーンツー？山林資源の活用？たんぼり村からヒントが見えそうです。

11.3 上田 伸治

- ・氏名：上田 伸治
- ・住所：鳥取市佐治町高山
- ・職業：梨・野菜農家、木工、自然体験講師など



・普段の活動

木工工作やシャワークライミングなど自然の中での体験の講師や、まげわっぱなど木工作品の展示・販売。体験を通じて、買ったらずむ、ではなくて自分で作る楽しさ、価値を分かって貰えたら、と思う。また、まげわっぱ等は昔からの知恵を感じるもので、後世に伝えていけたら...。こういうものがなくなり、プラスチックのものばかりになっても楽しくないと思う。

・たんぼり村について

もう少し年配の方も参加してみたらよいのではないだろうか。祭りを通じて1人でも佐治に引っ越してきてほしい。田舎は自分たちで固まってしまうのもっと外部のひとに来てもらって共に勉強しながら地域を良くしていけたら、と思う。



11.4 南條 君則

- ・スタッフ氏名：南條 君則
- ・住所：鳥取市佐治町栃原
- ・職業：百姓

・普段の活動について

山王自然塾として林業体験の講師や木美の森（国有林）の整備などしています。また自然栽培（無農薬無化学肥料）で農作物を作ってます。

・たんぼり村まつりに関わって

昨年のおたんぼり村まつりは今まで地元のまつりでは観たことないくらい、若いひと、子どもが多くお店も自分の納得したものをつかうこだわったお店ばかり。いろいろ新しかった！今年は毎月のワークショップにも関わっているが、火を焚いたり、キャンプしたり、全部自分たちは子供の頃やってきたことだけ、若い人には新鮮なんだと思う。若いひとが自然を知ろうとする雰囲気を感じるのは嬉しい。まつりを通じて、町外のひとと、地元のひとが沢山交流して欲しい。



11.5 金田 透

- ・スタッフ氏名：金田 透
- ・住所：鳥取市佐治町
- ・職業：梨農家

・メッセージ

私は肥料・農薬を使わない自然栽培という農業に取り組んでいます。日光、土、雨水、草、虫など「自然」の力を「利用」する農法です。そのため、どれだけ「利用」できるか、人の力量に成果がかかっています。

自然の力を利用する「昔の生活の知恵」あるいは太陽光発電などの「現在の知恵」を学べる、楽しめるたんぼり村に期待



11.6 多田 伸治

- ・スタッフ氏名：多田 伸治
- ・住所：鳥取市佐治町福園
- ・職業：地域おこし協力隊

・メッセージ

地域おこし協力隊に着任して1年4ヶ月が過ぎようとしています。現在主に2つのテーマに取り組んでいます。

1つは飯盛山の果樹園跡を畑として再生すべく少量多品種の野菜の自然栽培です。飯盛山は多くの放棄された果樹園跡があり葛が茂り、獣たちが闊歩しています。周りの農家も高齢化している中で、あと十年経つとどうなっているのか？就農制度や協力隊制度を利用して1年に1人でも新しい耕作者が増えればと思います。

もう1つは直売所「かみんぐ百菜」の販売支援です。佐治の農産物を市街地で販売する「公民館マルシェ」という取り組みです。最初はもの珍しさもあって来場者も多かったのですが、徐々に減ってきました...

農業もマルシェも一筋縄でいかず苦戦していますが、この経験を生かして自立への道へつながっていきたくです。



11.7 竹村 智行

- ・スタッフ氏名：竹村 智行
- ・住所：鳥取市用瀬町用瀬
- ・連絡先：ganbaretakemura@gmail.com

・メッセージ

佐治町出身、用瀬町在住。33歳、三児の父。

5年前まで県外で暮らしてましたが、第一子誕生を機に鳥取へ戻ってきました。たんぼり荘、山王谷キャンプ場管理・運営をはじめ、地域の様々な仕事をしている「(株)さじ式拾壺」に勤務しています。

キャンプ場付近の自然や雰囲気が好きで、業務の中でも施設の魅力発信を行っているので、まつり発起人の幸田さんが、すごく良いところだ！と感じてくれて、思いのあるイベントを開催することになったのは嬉しいし、感謝してます。個人的には想いの詰まった美味しいもの・楽しいものが、たくさんキャンプ場に集まって賑やかでエネルギー溢れるまつりが開催されるだけでも感動！ぐっときているので、たんぼり村の想いをくみとってほしいと思う反面、あまり色々考えず、ぷらっと気軽に、たくさんの人におこし頂けたらとも思います。

町外の方には、たんぼり村まつりがきっかけでキャンプ場や佐治町を知ってもらえたらいいなと思うし(欲を言うと引っ越してきてくれたらもっと最高!)この付近に住んでる方には、ちょっとその気になったら結構自分の手で生活を創ることできる環境に住んでること、実感してもらえたらいいなと思います。



11.8 幸田 直人

- ・屋号：いちまいのおさら
- ・スタッフ氏名：幸田 直人(たんぼり村まつり実行委員会 代表)
- ・住所：鳥取県東伯郡三朝町坂本 1608-3
- ・連絡先：090-7997-3321
- ・WEB：HP(<http://jizokutottori.dokkoisho.com/>)、ブログ(<http://blog.livedoor.jp/itimainoosara/>)
FB「幸田 直人」「いちまいのおさら」「たんぼり村まつり」
- ・職業：百姓(出張料理人・カフェオーナー、廃材セルフビルド大工、自家発電電気屋、自然農・養鶏など)



・活動紹介

33歳、妻・2歳の長女・0歳の長男の4人家族。

鳥取県北条町出身、岩手大学農学部「環境教育・地域おこし」専攻、NPO法人「森と風のがっこう」初代研修生。9年前岩手から鳥取に戻り、「自分がしたい暮らし・働き方・生き方」をしたいと、飲食店などで働きながら「食べること・暮らすことを楽しむ」をテーマに「いちまいのおさら」という屋号で、活動を開始。

自給自足・循環型の持続可能な暮らしを实践すべく、三朝の現在の古民家で8年になります。

「自分が暮らしていく上で必要なものは何か？」を自分の頭で考え、1つ1つ体を動かしながら、衣食住から始まり、インフラ(水・ガス・電気)、仕事(自営業)、教育(自主保育の場作り)、地域(たんぼり村まつり)、医療、移動、市民活動、、、と1つ1つ実践中です。

「自分で使う物は、自分にしか分からないので、自分で作る！」をモットーに、振り返ったら料理・大工・自家発電と様々な技術を取得しながら、自分が創ったモノを、気に入ってくれた人から仕事をいただけるようになり、なんとか好きなことを仕事にしながらやっております。

「無理なく、楽しみながら、きちんと稼ぎながら」を心がけながら、持続不可能な物...お金や化石燃料に頼らなくても、好きな場所で、好きなことをして、生きていける!という事を、生き方を通して若者に伝えたい。

・たんぼり村まつり

最近「地域」についてよく考えます。ずっとそこに住んできた人にとっては、これからも住んでいくことが当たり前だと思いますが、移住者はその場所を選んだにしても、死ぬまでそこに住み続けるとは限らないし、自分にとってその場所に住むデメリット(震災やしがらみ)が大きくなったり、他の地域でもっと自分がやりたいことが実現できるならば、移住することもありえると思う。「**3代住み続けて、地元民**」という言葉があるが、そもそも地元住民と移住者との境目もあやふやです。「**何があってもここに住み続ける!**」という意志を持ったときに、地元住民になるのかも知れません。

近年原発、災害、政治の変化など、天災・人災あるにせよ、**命の危険**を感じています。そこから「**何かあったときに、大切な物(家族とか)を守れるようにしたい**」と思うようになり、元々自給自足の暮らしはしていたのですが、やはり1家族での自給には限界があるので、「**何かあったときに、みんなで支えられるようなネットワークを作りたい**」と、**コミュニティの自給の在り方の模索と実践**を目指してたんぼり村まつりを始めました。

かつてのヒッピー村のように、山を切り開いて、価値観の共有できる人達と一緒にコミュニティを作れたら楽しいだろうな—と思いますが、それが自分たちの子どもにとっていいかは分かりません。既存のコミュニティは衰退・消滅しつつあるのは事実ですが、**変わる覚悟**さえあれば未来は開けると思います。いろいろ分からないことばかりだけれども、自分たちの子どもや暮らしを守っていくために、**出来るところからやっていかなければならないと、考えながら、つながりながら、実践して、1つ1つ身体に刻んでいくしかない**と思います。

「移住者にとっての地域との融合の仕方、既存の地域やコミュニティはこれからどうしていけばいいのか？」これからも、たんぼり村まつりのように「理想のコミュニティ」を実践しつつ、楽しみながら考えていきたい。

11.9 得田 優

- ・屋号 : 自然がっこう旅をする木
- ・代表者氏名 : 得田 優
- ・住所 : 鳥取県関金町福原 226-2
- ・連絡先 : 090-5963-1078
- ・WEB : HP (<http://tabiosuruki.com>)



・活動紹介

極北の動物誌という本の中に『旅をする木』という一節があります。一羽の鳥によって運ばれた種から芽が出て、鳥の巣になり、大雨によって倒れて川に流された後は魚の住処になり、海へたどり着くと海鳥の止まり木として漂流し、再び陸に打上げられるとキツネのねぐらになり、次はそれを捕まえに来た人間の畏の目印となり、最後は暖炉で薪になり、煙として空に還るといふ壮大な自然の時間の流れを描写したお話です。ただの木だと思っていた存在が“いま”という環境を受け入れながら、様々な表情の人生を歩んでいく姿に当時20代だった私は心が躍りました。そんな自由な心で旅をする一本の木のように、自然や人との関係の中で子どもも大人も自分の“いま”に耳を傾け、ありのままに育ち合っていける場所をつくりたいと思い、2015年の春に鳥取県倉吉市の福原集落にアウトドアと暮らしをテーマにした山の上の小さな学び舎をはじめました。現在は幼児スクール(3歳~5歳)、自然育児サークル(0歳~2歳)、キャンプ(幼児~大人)の3つの事業を中心に展開しています。

・フリーテーマ

現在は子どもを対象にした育ちの場を作っていますが、将来は子どもに限定せず大人やお年寄りが、1人の人としてのびのびと生きていける場所づくりをしていきたいです。生業としては、アウトドアと育ちの場づくり、といった感じでしょうか。さらに現在のフィールドである限界集落という環境を素材として、町に暮らす人たちが山(もしくは海などの田舎)に“楽しく関わる”ことを提供できる場をつくっていきたいです。理想としては、その場を企画し営むことが生業となり、地方への移住のきっかけになれば嬉しいです。